

論文審査の要旨

報告番号	修第 1262 号	氏名	玉木大輔
論文審査担当者	主査 加藤京一 副査 島居美幸 副査 小口江美子		
(論文審査の要旨)			
<p>学位申請者、玉木大輔氏は変形性膝関節症(膝 OA)の発症や進展予防、症状の緩和に多用されているコンドロイチン(CH)の奏効機序について細胞培養実験によって検討した。</p> <p>膝 OA 患者から採取し、株化した滑膜細胞(HFLS-OA)を各種濃度に調整した CH の存在下、10.0 ng/ml の IL-13 で刺激、培養上清中のペリオスチン濃度を酵素抗体法によって調べ、ペリオスチン産生に及ぼす CH の作用を検討した。その結果、CH が濃度依存的に IL-13 刺激によって誘導される HFLS-OA からのペリオスチン産生を抑制することが示された。また、同氏は CH のペリオスチン産生抑制機序を上記培養細胞における転写因子の活性化とペリオスチン mRNA 発現を調べることによって検討、CH が転写因子、STAT6 の活性化ならびにペリオスチン mRNA 発現を抑制し、その最小抑制濃度は臨床用量以下の 10.0μg/ml であることを明らかとした。</p> <p>我が国における膝 OA の患者数は約 3000 万人とされ、本疾患は高齢者の生活の質(QOL)低下の重要な要因となっていることや介護保険受給の主要な原因と考えられており、本症の発症や進展予防が高齢化社会では急務であると考えられている。玉木大輔氏の研究は膝 OA のサプリメントとして多用され、膝 OA の進展予防や臨床症状の緩和作用を有するとされている CH の作用機序について膝滑膜細胞を用いて検討し、CH が転写因子の活性化、さらには mRNA の発現を抑制することによって膝 OA の発症や進展に重要な役割を果たしていると考えられる滑膜細胞のペリオスチン産生能を低下させ、臨床効果を発揮していることを明示している。本研究の結果は、治療機序が不明であった CH の膝 OA に対する効果の一端を明らかにしていることから、学術上価値があり、修士(保健医療学)の学位に値すると判定した。</p>			